子どもたちを川に呼び戻したい
―わが町に清流をふたたび―

東京都町田市　エコネット町田

東京の町田市を流れる真光寺川。五月のとある日、鶴川第三小学校の全児童が参加して、「真光寺ウォーク」が行なわれた。これは、地域で遊び、知り、自然に親しむ、そして地域の人たちと接して、その人たちの考え・思いを知ることなどを目的に実施された、総合学習のひとこま。エコネット町田のメンバーが全面協力して開催された。

エコネット町田は、市民大学の環境問題に関する講座を受講した八名が立ち上げた。現在のメンバーは七十名以上。今回ウォークに協力した、同会の部会という位置づけになる「真光寺川を清流にする会」は四十名以上のメンバーを擁する。毎月第二日曜日の清掃や真光寺川まつりの開催、市民大学受講生の体験講座の受け入れ、小中学校の環境学習への協力など、地域に根ざした活動を展開中。ほかにも「めだか基金」を募ったり、活動の輪を広げるために「真光寺川里親の会」を作ったり、機関紙の発行やホームページでの情報発信など精力的だ。

エコネット町田、清流にする会の代表を務める山口拓郎さんは、四十年近く前、町田に引っ越してきた。その頃の真光寺川は、小鮒が泳ぎ、蛍が舞う谷戸の清流であり、あばれ川と言われるほど、増水時には氾濫し、周辺住民の生活に打撃を与えていた。今では二面がコンクリートで覆われ、氾

濫することはなくなったが、それと引き換えに、不法投棄が増え、子どもたちが川で遊ぶ姿も見られなくなった。宅地開発も進み、のどかな田園風景は縮小していった。

山口さんは、自身のサラリーマン時代についてこう話す。「毎日の通勤で川の脇を通っていました。もちろん川の存在は知っているわけですが、川に気がつくこともなかった」。多くの人がそうであるように、山口さんも会社人間だった。自分が住んでいる地域に目を向けることはなかったという。そしてリタイアしてから、ふと真光寺川を見て気付いた。川が汚い、子どもたちが遊んでいない。そんな思いを抱きながら、環境学習講座受講生たち八名がとある焼き鳥屋で酒盃を傾けた。「子どもたちに川に来てもらおう。そのためにわれわれはなにができるか考えよう」。そしてエコネット町田を立ち上げることになった。

この日の真光寺川ウォークは、鶴川第三小学校の全児童約三百名が、五、六名のグループに分かれて六つのポイントを巡り、遊びながら真光寺川について学んだ。同会のメンバーは調整池での野鳥観察、下堰での川遊び、いこい会館での手作り遊びを担当した。子どもたちに一番人気の下堰では、メンバー手作りの水鉄砲で遊ぶこともできる。「こんなの作ったの、何十年ぶりかね」と子ども

時分を思い出し、笑いながらも、試し射ち。下堰は唯一川に入れるポイントとあって、水鉄砲のほかに、魚とりや水質検査など、全身ずぶ濡れになりながら子どもたちの笑顔がまぶしい。

野鳥観察ポイントでは、珍しいバンのヒナを見つけて、女の子たちが「かわいいー」と黄色い声をあげている。

川の中ほどに葦の茂みがあるが、同会の申し入れで刈り取られずに残されたものだ。「近所の方からは、『虫が発生するから刈り取ってほしい』という要望が出ていたんですが、あそこでカモなどが卵を温めてヒナを育てるんですよ」。

真光寺川に棲む魚や鳥、虫などの写真を見ながら、子どもたちに〝自然〟を教える大人たち。それを興味津々に聞く子どもたち。ウォークのねらいの一つ、「自然を大切にしている人・守ろうとしている人の存在に気づく」は十分達成できたように思う。

■連絡先

エコネット町田・真光寺川を清流にする会

代表・山口拓郎　町田市鶴川一―十―十三

TEL　〇四二―七三五―〇三八二

「真光寺川を清流にする会」

ホームページ http://www5.ocn.ne.jp/~shinkoji/